

科目名	生体機能代行装置学概論			授業の種類	講義演習	講師名	
授業回数	8 回	時間数	15 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年 通年
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 医療機器全般に関する概要を知る。本講義を生体機能代行装置学、治療機器学、計測機器学を学ぶ準備という位置づけとする。							
<b>【実務者経験】</b> 臨床工学技士として笹生病院他で、血液浄化業務、手術室業務、内視鏡業務など幅広く経験。							
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 各医療機器の使用目的、構造及び機能について、臨床工学実習室での機器を用いた説明・実習及び座学にて学習する。							
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> ・医療機器全般についての概略を知り、簡単な説明が出来るようになる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	授業ガイダンス、1次救命処置：心肺蘇生とAED						
2	生体機能代行装置_代謝分野概論（血液透析とは）						
3	生体機能代行装置_代謝分野概論（血液透析回路プライミング）						
4	生体機能代行装置_循環分野概論（人工心肺装置とは、シュミレーション）						
5	生体機能代行装置_呼吸分野概論（人工呼吸器とは）						
6	生体機能代行装置_呼吸分野概論（NPPV、始業点検、使用中点検）						
7	その他、生命維持管理に必要な機器（ルート確保）						
8	その他、生命維持管理に必要な機器（セルジンガー法、ダブルルーメン）						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
定期筆記試験							
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社							
<b>【準備学習・時間外学習】</b> ・準備学習として当該範囲の予習をして授業に臨むこと ・授業内で学習した実技内容を、時間外で繰り返し実施し実践力を高めること							
<b>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</b> 試験の結果を100点満点で成績を評価する 実技テストを40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							